

【8月 “姿” の期間へ】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

「凜と立ち上がって，支えあって」

今年の夏も猛暑，熱中症などで体調を崩し，高齢者や中高校生でも亡くなる人がいました。そして，大阪では中学生二名が命を奪われる大変悲しい事件も起きました。かけがえのない「命を守りきる」ことを徹底していかなければなりません。また，局地的な大雨，竜巻，火山活動など今年も地球環境や自然ということを考えさせられる夏でした。

さて，皆さんも長い夏休みが終わり，新たなステージ（下京中では“姿”と呼んでいる）が始まりました。夏休み前の「志 風の式」では，悔いのない「夏」にするため，「小さな自らを省みる」習慣や計画的な学習や規則正しい生活の習慣を身に付けようと話しましたが，皆さんはどのような生活を送ることができたでしょうか。この夏休みの間に地域で祭りや活動などに参加するとともに，学習や部活動，生徒会活動などに一所懸命がんばっている「姿」も見せてくれました。計画通りに進んだ人，反省をしなければならない人，時間は後には戻りません。ふり返りや反省をし，すぐに学校生活へ移行していきましょう。

ところで，「がんばる」という言葉について，この夏，次の言葉に出会いました。「・・・また“がんばれ”と言われたときに，自分がどう感じるかもとても大切だ。抵抗を感じるのか，嬉しい励ましに思えてくるのか。追い詰められたような気持ちになるのか。あと一歩を行ける勇気がわくのか。言われた相手にもよるし，状況にもよる・・・」また，「私は，その人の全ては見た目には見えないと思っています（もちろん，見るほうがしっかり見ることが出来る能力を持っていた場合ですが）。」（『おとなになるってどんなこと？』吉本ばなな著）

人はそれぞれ性格や得意なことなど違います。互いがその違いを認め合い，支えあって生きています。行事の多い時期，自分の進路を決める時期，学年や人によって「姿の期間」の過ごし方も違いがあると思いますが，皆が“それぞれの志に向かって，凜と立ち上がっている姿”を，そして，皆で支えあっている姿を，見せてほしいと思います。ヒマワリが太陽に向かってそれぞれの花を咲かせるように。



〈滋賀 道の駅あいうマーガレットにて〉